

2020年度 教職員の自己評価集計結果とその考察

藤認定こども園
藤幼稚園・藤保育園

A：よく出来ている、 B：まあまあ出来ている、 C：あまり出来ていない、 D：出来ていない

I 保育の計画性

		A評価	B評価	C評価	D評価
園の教育方針等の理解	園の教育方針や教育目標を理解する	15.8%	81.6%	0%	2.6%
教育課程の編成	園の教育課程を理解し、それに基づいて保育の計画を立てる	12.9%	71.0%	12.9%	3.2%
指導計画の作成	指導計画は幼児の発達に即して幼児期にふさわしい生活を展開できるように具体的に作成する	16.7%	73.3%	6.7%	3.3%
環境の構成	幼児が主体的に関わりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する	11.4%	71.4%	17.1%	0%
	幼児が自ら活動を展開していけるような場や空間を構成する	11.8%	79.4%	8.8%	0%
	楽しい雰囲気の中で安心して遊びこめる環境を構成する	29.4%	64.7%	2.9%	2.9%
	幼児の発達や生活を見通した環境を構成する	11.8%	79.4%	8.8%	0%
評価・反省	自分の保育を評価・反省することで、次の保育に生かす	21.6%	73.0%	5.4%	0%

「園の教育方針等の理解」では、「よく出来ている」（以下、「A評価」という。）と「まあまあ出来ている」（以下、「B評価」という。）「あまり出来ていない」（以下、「C評価」という。）「出来ていない」（以下、「D評価」という。）のうち、「A評価」「B評価」の合計は、前年の100%から2.6%低下した。

「教育課程の編成」では、「A評価」と「B評価」を合わせて83.9%となり前年より3.1%低下、「指導計画の作成」では、「A評価」と「B評価」を合わせて90.3%となり前年より5.3%低下した。資質向上のため、指導計画の作成を今年度から取り組み始めた職員もあり、職員の経験に合わせた支援体制を再考しサポートしていく必要がある。

「環境の構成」の項目では、幼児の主体性や発達を考慮して保育環境を構成していると自己評価した者は、「A評価」と「B評価」を合わせてその平均は89.8%となり、前年とほぼ同じとなった。その中で、「幼児が主体的に関わりたくなるような素材や遊具を考えて環境を構成する」と「幼児の発達や生活を見通した環境を構成する」の項目において前年度より低下しており、子どもたちが主体的に関わりたくなるような素材や遊具を考える事について難しさ、一年の生活を見通した環境の設定に工夫の必要性を感じていることが窺える。この課題の解決するため、職員間で話し合う機会を更に増やしていきたい。

「評価・反省」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて94.6%で、前年度と横ばいとなった。全ての教職

員が日常から自らの保育を評価・反省し、次の保育に生かすことを意識し改善に努めるよう引き続き指導していかねばならない。

II 保育のあり方、幼児への対応について

		A評価	B評価	C評価	D評価
健康と安全への配慮	園内に危険な箇所がないか、危険な遊び方はしていないか常に配慮し、危険が予測される時は安全な遊び方について幼児と一緒に考える	13.5%	81.1%	2.7%	2.7%
	園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温などに気を配る	35.1%	62.9%	0%	2.7%
幼児理解	個々の幼児の発達の姿や課題について、見通しをもって理解する	21.6%	70.3%	8.1%	0%
	幼児同士の関わりの姿を捉え、そこでの幼児の育ちを理解する	24.3%	70.3%	5.4%	0%
	幼児の理解のために家庭との連携をとる	15.2%	72.7%	9.1%	3.0%
指導との関わり	幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動する	40.5%	56.8%	0%	2.7%
	幼児の話をよく聞いたり、スキンシップをとるようにする	54.1%	40.5%	2.7%	2.7%
	幼児が自ら考えたり工夫したりできるように見守り、行き詰まっているときには適切な援助をする	27.8%	69.4%	0%	2.8%
	幼児同士のトラブルに対し、適切な対応をするように心がける	29.7%	67.6%	2.7%	0%
保育者同士の協力・連携	クラスに関係なく、その場にいた保育者が適切な言葉かけや対応をするように心がける	29.7%	64.9%	2.7%	2.7%
	幼児のことについて保育者同士で話し合い、共通理解を図る	38.9%	55.6%	2.8%	2.8%

「健康と安全への配慮」の項目では、園内の危険な箇所、危険な遊び方をしていないかを常に配慮することについて「A評価」と「B評価」を合わせて前年とほぼ同じ94.6%であった。園内の清掃や整理整頓、換気、採光、室温については、「A評価」と「B評価」の割合が前年の85.8%から97.3%まで増加し、「健康と安全への取組」は職員を意識にもかなり浸透していることが窺える。今年度は新型コロナウイルス感染症により、改めて園内の清掃や整理整頓、消毒・換気が、子ども達の健康に重要なことであることを再認識したことが要因として考えられる。今後も徹底していきたい。

「幼児理解」では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均91.5%であり、前年度より3.2%低下した。幼児理解は、保育のあり方・幼児への対応に不可欠なものであり、全ての職員が個々の幼児の発達の姿や課題について見通しをもって理解する力と幼児の育ちを理解する力を高め、保育の実践を心がけていくよう支援する必要がある。

「指導との関わり」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて平均96.6%であり、昨年度よりも更に「A評

価」の割合が向上している。幼児の思いや考えに共感しながら、幼児と一緒に活動し、幼児が自ら考え幼児への関わりをととても重視しながら保育に当たっていることが窺える。

「保育者同士の協力・連携」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて94.6%であった。「A評価」の割合が昨年度より7.5%高まっており、今年度から取り入れているラーニングストーリーおよびドキュメンテーションに取り組む中で、保育者同士が話し合い、幼児について教職員全体で協力・連携することを意識していることが窺える。

保育のあり方、幼児への対応について、「C評価」「D評価」と自己評価した職員には、経験に応じた個別の指導・支援をしていきたい。

Ⅲ 保護者への対応について

		A評価	B評価	C評価	D評価
情報の発信と受信	保護者からの相談や要望には心を開いて、よく話を聞くように心がける	37.1%	54.3%	5.7%	2.9%
対応上の心がまえ	保護者からの依頼や伝言などについては、メモをするなどきちんと対応する	36.1%	61.1%	0%	2.8%
要望等への対処の仕方	要望等の内容によっては教職員全体で検討し、共通理解の上で対処する	29.4%	67.6%	0%	2.9%

「情報の発信と受信」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせて91.4%ながら、「A評価」の割合が前年度より7.1%向上した。その要因は、保育園舎のラーニングストーリー「みてみて!!〇〇のストーリー」あるいは幼稚園舎のドキュメンテーション「きらり☆Fuji Kids」を手段として、保護者へ情報を発信するようになったことが挙げられており、これまで以上に保護者とコミュニケーションをとる機会が増えたことが考えられる。その一方で、業務の見直しにより、保護者と直接対話する機会が減少した職員からは、その必要性を感じていることがわかった。

「対応上の心がまえ」「要望等への対処の仕方」の項目では、「A評価」と「B評価」を合わせると97.2%となり、ともに「A評価」の割合が前年度より7.1%増加した。保護者からの相談や要望にはよく話を聞くよう心がけ、依頼や伝言にもきちんと対応するように心がけていることが窺える。

「D評価」と自己評価した職員には、できていないと考えている点を日常の業務で意識し、改めていけるよう指導・支援していく。

Ⅳ 地域や自然や社会との関わり

		A評価	B評価	C評価	D評価
地域・自然・人々との関わり	地域の自然や主な施設の場所、交通機関、行事などについて理解するよう努める	10.0%	73.3%	16.7%	0%
小学校との連携	地域の小学校の行事や公開授業に参加するよう努める	0%	71.4%	28.6%	0%
子育て支援と地域への開放	子育ての支援や地域への開放に努めている	11.1%	66.7%	22.2%	0%

「地域・自然・人々との関わり」の項目では、「A評価」と「B評価」の合計は平均で77.5%となり、前年度より9.1%向上した。前年度から機会を増やしている園庭で植物を育てたり野菜を育てたりすることや、地域の方と一

緒に活動する機会として、昨年度より実施しているアクティブシニアの方々との花育活動に加えて、今年度より「絵本の読み聞かせ」ボランティアさんにお越しいただいた。また、今年度は途中から、園内に「芝生広場」「探検の森」が整備でき、自然と関わる機会が増加したことから、職員の意識も向上したことが伺える。今後も、引き続き更なる機会の設定と充実に努めていきたい。

「**小学校との連携**」では、新型コロナウイルス感染症の影響により、残念ながら連携する機会がほとんどなかったが、今年度は小学校教諭の新規採用研修として義務づけられている幼稚園での一日研修を受け入れ、豊が丘小学校の教諭と意見交換の機会が持てた。今後も合同の研究の機会、意見交換の機会を設定できるよう地域の小学校と相談していきたい。

「**子育て支援と地域への開放**」の項目では、新型コロナウイルス感染症の影響により、年間6回実施していた“園庭開放”を休止した。また、これまで有償で実施していた“ぴよぴよくらぶ”を廃止し、昨年度から無償で実施している“くまのみクラブ”を、地域の未就園児親子が集まれる場として本年度も実施したところ、前年度より利用者が3倍増となった。子育て支援や地域への園庭開放に携わる担当者以外にも内容を伝達し、教職員全体で子育て支援について考え内容の充実に努めていきたい。

V 研修と研究について

		A評価	B評価	C評価	D評価
研修・研究への 意欲・態度	研修会や研究会には自己の課題をもって参加する	20.6%	55.9%	14.7%	8.8%
	自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談する	20.0%	65.7%	11.4%	2.9%

「**研修・研究への意欲・態度**」では、新型コロナウイルス感染症の影響により、園外研修の機会はほとんど中止となったが、リモート研修で参加できるものには積極的に参加した。また、今年度から取り入れているラーニングストーリーあるいはドキュメンテーションの園内研修に三重大大学の先生にも入っていただき、アドバイスを受けながら一年間研修を重ねてきた結果、「研修会や研究会には自己の課題をもって参加しているか」の問いに「A評価」と「B評価」と答えた者が76.5%となり、前年度より12.5%増加した。今後も、引き続き研修会・研究会に参加する機会の確保とその体制作りにも努めていくとともに、職種に応じそれぞれが意欲的に参加できる機会を提案する必要がある。

「自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主任、園長に相談しているか」の問いには、「A評価」と「B評価」と答えた者が86.6%となり、前年度より12.6%増加した。ここ2年間で25%向上したことから、相談しやすい雰囲気が続いていることが伺える。今後も引き続き、何でも相談できる雰囲気作りと教職員間の相談体制の充実に一層努めていく必要がある。

2020年度 教職員の自己評価について の良かった点及び改善点

I 保育の計画性

指導計画の作成

- ・ 保育の計画は、子どもの成長・発達に応じて、担任3人で話し合いながら毎月進めていった。
- ・ 年度途中から、クラス毎の月の計画案を作成することで、より詳しい保育計画ができるようになったと思う。また、前年度までとは違って、一人で作成するのではなく計画の段階から担任同士で話し合いながら作成することで、その月の保育計画を共通理解し合えたと思う。計画案以外にも、昼休憩などを利用して翌週の保育の計画について話し合いながら進めることができた。
- ・ 週2、3日の勤務の中で、計画自体に携わる機会があまりなかったのですが、クラスの先生方と子どもの状態を報告しあうことで、方向性がよく分かり良かったです。
- ・ 初めて担当する歳児となり、わからないことがわからなく戸惑いも多々あったが、書籍を読んだり、他の担任と相談したりしながら保育を進めることが出来た。“今月は子ども達にどんな経験をさせてあげようか”“その経験からどのような学びがあり、成長がみられるのか”などを考えながら保育を計画していく面白さがあった。
- ・ 2年連続で同じ歳児クラスだったので、昨年度の反省や経験を生かせるよう心がけた。今年度はクラス連携をしっかりと取っていくことに気を付け、クラス主任のサポートを私なりにしようと頑張ってきた。クラスを運営する中でも、日々の保育のこと、子どもたちのことについて、なるべく声を掛けることを意識してきた。ただ、パートの先生も多くて細かいところまでじっくり話し合えたかということ、まだまだできないところがあるので、これからも気を付けていきたい。
- ・ 個別指導計画を立てていた時は、一人一人の遊び、生活習慣、友達関係などに配慮し、1週間ごとの姿をよく見ることができた。また、子どもたちの心の変化や困り感に気づき、クラスで共有することができた。また、それに基づいて計画を立てることができた。クラス担任が、全員揃うことがなくみんなで話し合う機会がなかったことが残念だった。
- ・ 複数担任なので、それぞれの意見を聞きながら、計画していけた事が良かった。担任以外の保育者に午睡チェックをしてもらう日を設定してもらえたことから、話す時間もとれた。勤務時間の都合上クラス全員が揃って話し合う事は難しい。個別指導計画を立てていた時は、振り返りや反省をしたり、考えたり、子どものことをよく見て、保育に活かしていけたので、立てていなくても同じようにしていきたい。
- ・ 複数担任であることから、保育計画についても話し合うことができるので、多角的に保育計画を練ることができるのは良い点だと思います。パートも含めて担任全員で話し合う時間が取れないことは勤務上難しいが、改善できると良いかなと思う。
- ・ 学年全体での活動としては、主任の月予定を元に先の見通しを持って進めていけたと思う。
- ・ クラスとしては、自分に余裕が無く準備に掛ける時間があまり持てなかったように思いました。当日バタバタして、子どもたちを待たせてしまう事がありました。

- ・優先順位を付け、先の見通しを持って計画を頭に入れるよう心がけたい。様々な行事を見越して、日々の遊びに取り入れながら遊びの延長として行事に向かうことができたことが良かった。
- ・月案やドキュメンテーションで保育を振り返ることで、今、子どもたちが何に関心を持っているのが記録として残り、その後の環境設定に取り入れたり、興味を膨らませることができた。
- ・ドキュメンテーションにより、子どもたちの日々の姿を写真に残してあることで、その月の反省や次の月に向けての計画が立てやすかった。子どもたちの姿から、より具体的に援助や環境構成などを計画して行けたと思う。反面、子どもの姿に捉われ過ぎて、先を見通した計画が立てられず目の前のことばかり計画の中に取り入れてしまったことが反省点である。学期を意識して目標や計画を立てるようにしていきたい。
- ・指導計画を作成し、ねらいや育てたい保育内容を考え、各週毎に振り返り、子供の成長とともに自分の保育を見直し反省できたことは、とても力となった。

環境の構成

- ・環境の構成では、安心して活動できるように楽しくなる部屋の構成をし、月齢に合った手作り玩具を作ったりした。1月になり、月齢が大きくなるにつれて、遊びも変わってきているので、自ら活動を展開していけるように工夫していきたい。
- ・今、子どもたちが、興味を持っている玩具を作ったり、発達段階に合う玩具を用意したり、子どもたちの状況を見て、職員間で話し合い変えていくことができた。
- ・手作り玩具の数を増やしたことは良かったが、保育室の環境も子どもたちの様子を見ながら考え変えていく事が大事だと思うので、クラスの先生と話し合いながら環境を整えていきたい。
- ・今年度は、特に室内環境について大きく見直し、複数のコーナーを設けることで子どもそれぞれの興味を分散し、少人数で活動できるようにしました。また、保育者の配置についても、死角が生じないように意識し、個々の役割を明確にすることで、噛みつきや引っ掻きなどのトラブルも少なく、それぞれの子どもが好きな活動をじっくりとできたように思います。
- ・保育者も環境の一つと考え、自らが健康で安定して仕事ができるように心がけた。
- ・クラス担任で、その都度話し合い試行錯誤しながら進め、子供たちの月齢に合わせた環境をつくり、遊びこめるように構成した。
- ・環境構成などは、子ども達の様子や、遊ぶ姿をおもい浮かべながら配置していき、担任間で意見を出し合いながら進めて行けたと思う。しかし、もっともっと子ども達と一緒に遊び込むことで見えてくることがあると思う。今の状況で満足することのないように、今後の保育をしていきたいと思っている。
- ・昨年の経験を活かして、行事や日々の保育の準備ができたと感じる。他の先生方と何度も話し合いながら、一日の流れや子ども達の動線、環境構成についてより深く考えることができた。特に環境構成は、今年度大きく変える機会が何度かあり、今の子ども達が楽しんでいる遊びや姿からコーナーの位置を変えるなど、自分には考え付かなかった環境に触れることができ、とても勉強になった。
- ・学年で話し合い、連携をとりながら取り組めた。
- ・子ども達の学び、子ども達がやってみたい！と主体的に遊べるような環境や、どんなことに興味

をもって学ぼうとしているのか一緒に考えていけるようにしていきたい。

- ・月案を作成することで、環境構成を考えたり整えたりすることができ、子ども達が楽しんで過ごせる場、また安心して過ごせる場になったように感じる。
- ・担当クラスの先生と子どもの日々の様子を見て楽しく遊べるように色々と工夫をした。自分の意見を取り入れてもらい、環境構成をしていくのが楽しかった。いろいろな先生がみえるので、園全体が意見を言い合える関係を築けるようになれば良いなと思います。
- ・昨年度も同じ学年を見ていたので、その点では今の時期子どもたちがどんな姿なのかを把握したり、比較したりできて計画を立てやすく、日々の保育もしやすかった。ただ、毎年の課題でもある環境設定にすごく悩まされた。今現在の子どもの姿や様子から、どういう遊びや物に興味があるかを知り、それを環境に結びつけてきたが、もっと踏み込んだ環境設定ができたのではないかと感じている。常に試行錯誤しながら、引き続き環境設定の工夫をしていきたい。
- ・今年度は支援が必要な子の加配担当として保育にあたっていました。クラスの友達と同じように活動していると気持ちが落ち着かない場面などありましたが、その子にとってどのような保育環境を整えたり、用意したら落ち着いて過ごせるかを考え様々なことを試してきました。やはり、毎日の園生活が楽しく、安心して遊びこめる環境を構成していくことが大切だと思い、計画できたことがよかったと思います。
- ・子どもたちが、今やりたいことを十分できるようコーナーを設け素材も考え用意してきた。遊びが同じものにならないよういろいろ考えていきたい。
- ・縦割り保育の効果を感じた。年長児が進んでお手伝いや片付けをしてくれるようになり活動がスムーズになる、トイレ・手洗い・座席決め・整列など異年齢でのペア活動により年長児の成長した姿が見られる、工夫された年長児の遊びがお手本となり刺激を受けて発展していき全ての子どもたちが遊びこんでいる、などがあった。
- ・一緒に担当する保育者のおかげで、子どもたちが自ら活動を展開していけるような環境設定ができたように思う。
- ・異年齢で過ごす時間帯の保育なので、季節やクラスの子どもたちが興味のあることに対して、また各年齢に応じたものを考え、日々の遊びが楽しめるよう工夫するよう努めた。ただ、先を見通して計画が立案できていないので、今後の保育で反省を踏まえて検討できるようにしていきたい。

評価・反省

- ・子どもたちが安心して楽しく過ごせるよう、職員間のコミュニケーションを図り気持ちよく働けるようにした。毎日出勤しないパートの先生には、前日の様子や気になる子の様子を話すよう努めた。しかし、なかなか時間が取れず深いところまで話すことができなかった。
- ・子どもの関わり方で疑問に思うことを話すことができた。
- ・各クラスに入った際、それぞれのクラスの担任の先生たちの指示を聞いて行動したり誕生会などの計画案を立てたりして楽しい雰囲気を出して誕生会を行えたと思う。各クラスの担任の先生たちに一日一日の活動を聞きながら、安全面を確認しながら行動できたのではないかと思う。
- ・自分のやりたい保育を提案できるようにしていかなければならないと感じる。
- ・今年からホームクラス中に避難訓練を行いました。訓練計画を頂いたので分かりやすかった。計

画が手元にありましたが、子どもたちを外に出すタイミングが早すぎてしまいました。今後、焦らず、もっとゆっくり行動していきたい。

- ・職員会議の議事録をきちんと読むようにしていますが、毎日行われるミーティングの内容が記録されたノートを読む機会が限られているので、そちらもしっかり読むように気をつけたい。
- ・毎月、月案や年間指導計画をもとに保育を進めてきた。今年度はコロナ禍での生活様式となり、園でも感染予防、消毒など衛生面に気を付けて過ごすことになった。密を避けての生活であり行事の開催の仕方にも試行錯誤することが多かった。その中では広い園庭で体を動かして遊ぶこと、友達や先生との関わりで心も体も成長する環境や遊びを考えて工夫することが必要と分かった。
- ・日々の保育を、ドキュメントの作成により振り返り、目標をたて、保育していくことが出来たと思う。また、計画を立てていく中で、学年の担任団との連携を大切にしていたが、他学年とのバランスをもっと意識出来ればよかった。運動会の取り組みでは、曲の変更があり取り組みが遅くなった。楽しんで出来るよう心がけ、遊びの時間も確保しながらメリハリはつけていけたように思う。
- ・振り返りが大切と思いながらも、日々の振り返りを行うことがなかなか出来ず、月案を通しての一か月の振り返りになることが多かった。
- ・その学年に応じた保育ができるように研究し、見通しを持って取り組もうとした。学年の先生と話し合う時間を持ちながら、コロナ禍で何が出来るか、どこまで出来るか、どこをどのように楽しめるか、それには何が必要かと言うことを考えながら保育にあたってきた。厳しい現実の中で出来なくなってしまったこともあったが、新たな取り組みにチャレンジし、それを作り上げていく楽しみを味わうことができたように思う。
- ・運動会などの行事になると、完璧に近いものを求めてしまい何度も繰り返すことがあった。その日の目標を決め、できたら終わるなど子どもの負担の少ない活動をするべきだった。
- ・子どもが今何をしたいか、年齢に応じて何をしていけばいいかをまだ理解できずに自分がさせたいことばかりをしてしまう保育になっていた。より普段の子どもたちの遊びに関わり、年齢に合った環境を作れるように努力していきたい。
- ・コロナ禍において、予測がつかない難しさもあったが、全体的になんでも直前になって決まってしまうことが多く、あまり計画的にすすめられていなかったと思う。結果、子供の気持ちがいままま終わるとか、やらされて終わるといった中身を伴わない内容で終わることが多かった。
- ・全体のこともクラスのことも、決まらないと先に進められないので、それまでに深く考える時間は必要だが、時期が来たらすみやかに決定していくことがとても大切だと強く感じた。

II 保育のあり方、幼児への対応について

健康と安全への配慮

- ・子ども一人一人の気持ちに寄り添いながら、スキンシップを大切に關わるように心がけた。子ども達同士の関わりで噛みつきや怪我のないように気を付けていきたい。
- ・遊び方の約束や日常の保育の支度のやり方が、クラスにより違うためホームクラスに入ると戸惑うことが多い。自由な中でもある程度の約束事や手順を統一してもらおうと、子どもの不安が無く

なるのではと思うことがありました。

- ・園内の清掃や整理整頓は、一人一人がもっと心がけるべきだと思います。
- ・園内の清掃など、出勤をもう少し早くするよう心がけ、先生方がして頂いていることを自らもつとるように改善していきたいです。
- ・今後も室温・換気に十分気を付けていきたい。
- ・コロナで日々、遊具の消毒・換気に気を付けた。
- ・子どもたちの話をよく聞き、スキンシップを十分にとってこれたと思う。日々、怪我のないように注意して見守っているが、クラス内で怪我があったので、今後もっと注意していきたい。
- ・感染予防対策や今までにない行事の取り組み方を検討することが多く、改めて考えさせられることがあったが、そのことにより今までを振り返る良い機会にもなった。

幼児理解

- ・保育園のテーマである“子どもを観る、聴く、理解する”を心がけ、子どもと一緒に遊ぶことで、更に子どもの興味や関心、必要としていることがわかり、遊びの展開に繋がったように思います。
- ・子どもの発信やひらめきは常にキャッチしたいと意識をして保育をしている。教育者として観察眼を高め、行動し、学ぶ姿勢をもった。
- ・ドキュメンテーションや写真を撮ることで一人一人のキラリと光るものを感じ、興味関心を更に膨らませることができた。
- ・少しずつ子どもの姿を観察して、自分なりに一人一人の子どもを理解していき、子どもたちにとってよりよい関わり方ができるように努力してきた。

指導と関わり

- ・園生活が初めてで、母親から離れ、始めは不安もいっぱいなので、安心して過ごせるように、スキンシップを大切にしたり。子ども一人一人の発達段階に応じた関わりを大切にしたり。
- ・初めて担当する歳児クラスであったが、子ども達一人一人と向き合うことができた。今年はコロナの影響で4～5月は少人数での保育だったこともあり、自分自身も落ち着いた気持ちで子ども達に関わることができたと思う。排泄や食事などの生活面で子ども達に負担はなかったかと思うこともあったが、年度末になるにつれ、日々子どもの成長や育ちを感じることもできたのでよかった。
- ・コロナ禍のなか、マスクをして子どもと対応することの難しさを感じた。表情が見えないと喜怒哀楽が伝わらず、子どもとコミュニケーションがうまくとれたのか心配になる時があった。ここぞと言う時にはマスク外して表情を見せるようにしたり。
- ・子どもとの活動に関して、自ら楽しむことで子ども達も楽しんでくれると信じ行動したり。
- ・子どもたちと信頼関係をつくり、個々の発達に応じて友達とのコミュニケーションや、触れ合いが生まれるように見守り援助したり。
- ・夢中で遊んでいる子が、じっくり遊べるよう工夫し“遊び”を保証したり、好きな遊びを見つけにくい子には、誘ったり援助してきました。また、スキンシップを多くとることを心がけまし

た。膝に乗せて触れ合い遊びをすると大喜び。いろいろな、触れ合い歌を覚えたいです。

- ・自分なりに子ども達一人一人に対してしっかりと対応してきた。担当クラスでは、年齢的に“イヤイヤ期”の子ども達がたくさんいて、個々の関りがとても難しい。その中で、いかに気持ちを持続させたり、向かせたりするのかを日々試行錯誤しながら関わってきた。十人いれば十通りの関わりがあり、とても難しいと感じる。複数担任ならではの、いろいろな意見を取り入れながら、子ども達の個々にあう関わり方をしていきたいと思う。
- ・個々の発達や成長に応じて対応することを心がけ、自分なりに頑張っているが、その中でも気難しい子や個別に配慮が必要な子に対する関りがとても難しく、悩むことが多くある。一人で抱え込まずに、担任間で話し合ったり他の先生に相談することを大切にして、いろんな方の意見を聞くようにした。自分で分からないことや、保育に疑問を感じたときは話し合い、いろいろな意見を取り入れて、より良い関わりができるように努力していきたい。
- ・子どもの気持ちになって考えることをより意識できた。その子が嫌がることや困っていることに対して、「ではどうしたらいいのか」と、子どもの姿から自分なりに考え、行動することができた。(例：トイレに行くことを嫌がる子がいる。トイレに行くことが楽しくなるように興味のある虫の写真を貼るなど。) また、個別の関わりが必要な子が何人かいるが、言葉掛けや関わり方などを保育者間で共有することができた。
- ・一人一人の気持ちや思いに寄り添いながら、丁寧に関わるように心がけた。それぞれの成長や発達に応じて、関わり方を考え、対応するようにした。対応の難しい子どもに関しては、日々、悩むことが多く自分の保育力のなさ痛感することもあったが、クラスの担任同士で協力しあったり、良い関わりができるように情報を共有しながら対応した。
- ・みてみてストーリーを作成することにより、保育を振り返り、子どもの学びや育ち、保育のあり方を再確認し、保育に活かすことができた。個別の対応が必要な子が多く、対応に悩む事もあったが、環境を変えたり視覚からわかりやすくすることで、子どもの「できた」が増え、誉める機会も増えた。まだまだ自分自身迷いもあるので、先生方に相談しながら保育していきたい。
- ・一人一人に寄り添いながら保育を心がけてはいるものの、個性が強い子や配慮が必要な子が多くなかなか自分自身に余裕が持てず保育をしていることが多かった。
- ・各クラスに入った際に、一人一人の性格であったりその子自身のペースに配慮しつつ時間配分を考えながら次の行動を子どもに伝えて行動できたと思う。室内遊びの時や外遊び、お散歩の時には楽しいときは思いっきり子どもと楽しく関わり、子どもが危ないことをしていたり友達同士のトラブル・おもちゃの取り合いをしているときは何があったのかを聞き出している。
- ・一人一人の幼児の持ち味を生かしながら関わる事ができた。
- ・子ども一人一人のありのままの姿を受け入れたり、ふとした時のつぶやきや想いを大切にするように心がけている。
- ・乳児経験の方が長かったので、改めて幼児の発達に合った学びや遊びを自分なりに書籍を頼りに勉強した。言葉のコミュニケーションができる年齢なので、改めて自分の言葉遣いや 声のトーン等、その場その場で見直す努力をしました。
- ・子どもと一緒に遊び、一緒に発見を喜んだり、笑いあったりすることができた。自分自身が“楽しい”と感じて保育を行うことができたことが一番嬉しい。

- ・環境の設定で4月から大きく保育室の環境が変わっていない。環境を変えることで更に遊びに広がりが出てくることは理解しているので、子ども達が遊びこめるような環境を都度考えていかなければならないと思う。
- ・同じ学年でも、子ども同士の相性が良くない子どもがいました。トラブルにならないようにそれぞれ違う遊びや行動が出来るように心がけていました。
- ・給食では、一人一人の好みに合わせながら、無理のないように「一口だけ」、「半分」、等と子供が自分で言えるように努めました。スキンシップを大切にし、一緒に遊んだり、作りたい物に手助けをしたりして過ごしました。
- ・一人一人の様子に合わせて声を掛けたり援助をしたりした。クラスに関係なくより多くの子どもに声を掛けるようにしている。
- ・自ら選ぶ活動はとても重要だと実感している。自分で考え行動することが大切だと思う。それを実現するためには、自分を認める自己肯定感がないといけない。幼児への対応については、やはり一人一人の特徴をとらえて、それにあった対応をする必要があると思った。
- ・子どもたちがひとつの遊びを夢中で楽しめる、遊びこめる環境を作っていくことを常に意識し、加配教諭と連携をとりながら日々の保育や幼児一人一人への丁寧な対応を心がけていった。視覚支援の教材を活用することで、支援を要する子の生活がスムーズに出来るよう努めていった。日常の保育の中で、運動会などの行事にも興味を持ち楽しんで取り組めるように環境づくりに努めた。
- ・子ども達とのスキンシップ、コミュニケーションを大切に捉え関わってきた。時には厳しい時もあり、怖いと言われることもあるが子ども達への思いを持った対応と考えている。
- ・「自ら考える力をつけてほしい」という思いから、子ども達との話し合いの場を設けるように心がけてきた。まだまだ考える力がついていない一面もあり、長い目で見守っていく必要があると考えるが、少しずつ変わってきているように感じるので、このまま育っていってくれることを願う。
- ・子どもと共に作り上げるということを、今一度見直すことができた一年だった。子ども達の主体性が伸びるきっかけになった面もたくさんあり、自ら作っていく楽しさを味わうことができた。クラスのカラーとして最初はほぼトラブルがなく、穏やかな様子であったため、その状況も大切に受け止めながら、逆にトラブルになる状況を作り、さらに友達とのかかわりが深まるように気をつけて子どもたちとかわってきた。2学期後半ぐらいから、子どもたちの成長もあり、気持ちをぶつけ合う場面も増え、友達関係が深まってきている。相手に優しくする！という次の課題も見えてきているので、3学期はそのことも見据えながら、子どもたち一人一人の姿をしっかり捉えながら、クラス作りを仕上げていきたい。
- ・一人一人が理解できても、それがクラス全員の集団保育となるとどのように保育していけばよいかまだ見つかっていない。クラスとして今なにが必要か、クラスをどのようにしていきたいかを常に考えていくようにしていきたい。
- ・子どもの気持ちや思いに共感しながら、子ども達と一緒にたくさん遊ぶことができました。またスキンシップをたくさんとることもこころがけ、できて良かったです。
- ・何事も、結果を評価するのではなく、そこに至る過程についてもっと評価し、もっと大事にすべ

きではなかったかと思う。子どもには、やらされた感を残すのでは無く、達成感を残してあげたい。まあいいかという加減に済ませるのではなく、子どもの反応は常に確認する必要があると思う。

- ・保育者の持っていき方で子どもに残るものが全然変わってしまうことを痛感した。一つ一つの取り組みについて、力がきちんと発揮できるよう、もっと膨らませて、もっと自分で考えたいくなる機会を作ってあげること、そしてもっと個々の気持ちを尊重してあげることが必要だった。
- ・スキンシップを求める子どもたちには、しっかり話を聞きスキンシップをとり安心して過ごせるように心がけてきました。また、トラブルに対しては、双方の話を聞き納得のいく言葉がけを心がけました。
- ・子ども一人一人の気持ちを受け止め、その子に合った関わりを大切にしました。忙しい時間になると、子どもの話をじっくり聞けないことがあったり、少し目を離したときにトラブルがあったので、今後は忙しいときにも気を付けていきたい。
- ・一人一人と丁寧に関わっていく中で、自分の気持ちを自ら保育者に伝える事や友達への思いやりが芽生えたり自分で考える力がつきみんなで解決する姿も見られ、安心して過ごすことができていると思う。全体に向けて話をする際も、落ち着いてしっかり聞く姿勢が身についてきている。

保育者同士の協力・連携

- ・子どもたちの思いを考え、子どもたちの声に耳を傾け、日々保育していく中で、自分の援助の仕方や、言葉の掛け方が適切であったか、職員間で話し合い、今後の進め方を考えて保育できた。
- ・クラスの常勤保育者とパート保育者のモチベーションに差が生まれ、連携に努めましたが、共有が難しかった部分があります。自分自身のコミュニケーション能力が問われ今後も努力が必要だと感じました。
- ・探検の森は、子ども達にとっても良い環境だと思った。ただ怪我などを考えると、担任だけではなく、もう少し保育士を多く配置できるとより安全に保育者も思いっきり子どもと遊ぶことができると思います。
- ・加配の先生と朝の段階で当日の保育内容を伝え合い、見通しを持って保育を行うことができるようにしていたことは良かった。
- ・加配担当だったので、その子の様子をしっかりと見守り、月毎に支援計画を立てた。その月毎の様子に合わせて目標を立てたり援助を行ってきたが、クラス担任の先生となかなか話し合う時間を作ることができず、お互いの思いがうまく通じないこともあったので、もっとコミュニケーションを図りクラスの一人一人の子の様子について共通理解できるとよかった。
- ・担当している配慮が必要な子以外の子どもたちと関わっていると、担当児の事が目に入っていないことがあり、大勢の子どもと接しつつ同時に個を気に掛けることの難しさを感じ反省する。クラス担任の先生とは、限られた時間なのに割とこまめに話をする事ができ、いろいろと確認したり気づかせて貰えたりありがたい。
- ・複数担任で保育していることもあり、自分が見落としているところや気付いていないところを知らせてもらえ、ありがたく思った。“一人の目”だけでなく“複数の目”で子どもたちに接することで、様々な視点から一人の子を見ることができ、そのことによって次への関わり方や援助の

ヒントが生まれたと思う。

Ⅲ 保護者への対応について

情報の発信と受信／対応上の心がまえ

- ・初めての子育てで、戸惑う保護者からの相談はよくあったが、その都度よく話を聞くように心がけて対応すると、その後どうなったか知らせてくれて、成長を喜び合えることができた。この一年クレームはなく引き続き、職員同士が共通理解をもって、保護者に安心してもらえるようにしていきたい。
- ・いつも笑顔で接することを心がけて、話しやすい雰囲気を作り、家庭での様子を聞いたり、園での様子を伝えたりできた。
- ・連絡ノートを丁寧に書いてくださる家庭が多いので、家庭の様子がよく分かり、園での様子をできるだけ丁寧に伝えるよう心がけた。登降園時にお会いできた保護者の方とは、できるだけコミュニケーションをとるように努めた。
- ・ラーニングストーリーを通して、全ての保護者と話す機会が更に多くもてたように感じます。複数担任のため、情報を共有することや保育者としての意識や責任感を高めることが難しく感じましたが、今後も保育中のケガやトラブルも含めて、誠意をもって丁寧な対応をしていきたいです。
- ・担任と保護者とがプライベートで繋がっていることで、保護者の不安や不信を招くケースもあったため、個々の保育者の質が問われると感じました。
- ・今年度は、ラーニングストーリーを通して保護者と一緒に、子どもの成長を分かち合うことができたと思う。写真を見ながら子どもの育ちについて話したり、年度当初の写真を見ながら話したりすることで、自然と保護者との会話も増えたように思う。また、子どもの噛みつきやトラブルなどもやんわりと保護者に伝えていくことで、意識して関わってもらえることもあった。
- ・ラーニングストーリーを通して、保護者と子供の成長を話し合ったり喜びあったりすることができた。
- ・家庭での関わり方を聞くことで、園での関わり方を伝え連携することができた。
- ・保護者とどのような対応をしたかを保育者同士の連携をもっと深め、情報を共有できるようにしていきたい。
- ・降園時、園での心身の様子(元気だった、食欲がなかった等)と共に、ちょっとしたエピソードを(友達とのやりとり、好きな遊び等)必ず伝えるよう心がけた。保護者からも、お家でのエピソードを聞かせていただけるようになり、励みになりました。
- ・保護者からのクレームなどはなかったが、要望や子育ての悩みなどには真摯に対応し、クラス担任全体で把握し考え対応してきた。また、副園長にも相談しながら、どのように対応していけばよいかアドバイスなどもいただいた。今後も、みんなで共通理解をしながら保護者対応をしていきたい。
- ・保護者との信頼関係を築くことを大事に考えながら関わることを大切にしている。また、保護者からの相談や要望にはしっかりと聞き、クラス担任間で情報を共有し、どの保育者でも対応できるように心がけている。今後も、保護者が安心できるような対応に努めていきたい。

- ・初めて個人懇談にあたり、保護者に伝えたいことはどんなことか、どんな風に伝えたら良いかなど、先輩方に助言をいただきながら、自分でも考える良い経験ができた。また、日常でも、お迎えの時に子どもの一日の様子や出来事などを話すように心がけた。ラーニングストーリーを通して、子どもの育ちを保護者に伝えることで、育ちを共に喜び合える嬉しさを実感できた。
- ・パートで時間的にお会いできない保護者もみえたが、朝や帰りのお迎えで顔お合わず保護者とは、日々の子どもの様子や成長についてお話することができ、コミュニケーションをとることができた。また、“みてみてストーリー”をお渡しする時に、家庭での様子やご家族のおはなしをお聞きするよいきっかけになったと思う。
- ・廊下にてている時、朝の支度や掃除の時に話す機会があるので、保護者ともたくさん関わる事が出来てよかったが、早番、遅番の保護者の方とはなかなか話す機会がなかった。
- ・クラス以外の保護者、子どもたちにも積極的に挨拶するようにしていった。個人の名前を呼んで挨拶できたら良いが、他クラスの子は触れ合う機会も少なく、顔と名前が一致していない子もいるので覚えていきたい。
- ・廊下で朝の準備をしているので、比較的保護者とお話をする機会が持て良かったです。早番遅番にかかる長時間保育の子どもについては、行事や参観でなるべく声をかけるようにしました。
- ・早番や遅番、朝の受け入れ時には、しっかりと挨拶したり子どもにケガをさせた時には、保護者にしっかり説明しお詫びしている。
- ・今年から始まったラーニングストーリーを月末に渡す際、自分が書いた子を渡せるときと渡せない時があるので、なるべく自分で書いたものは自分から渡していきたいと思う。
- ・保育で大切にしている事を伝えたり、クラスでの活動や遊びの中で子どもたちの成長にどのように繋がっているのかを伝えている。
- ・毎日送迎時に顔を合わず保護者はもちろん、特に気を付けてバス送迎のお家の保護者との関わりを深く持つようにした。連絡ノート・コードモン・ドキュメンテーション等で小さな事でも様子を伝えました。
- ・進級、入園し子どもも保護者も大きく環境が変わって不安に思う気持ちを理解し、保護者との対話を大切にしてきたところは良かった。
- ・保護者の思いを聞き取ることを大切にしてきた。傾聴することの大切さを改めて感じる事ができたので良かった。
- ・保護者に対して笑顔で対応することを心がけました。
- ・担任の先生、養護教諭から聞いた状況を説明し、いつもと違う様子があるときには、保護者に必ず伝えるようにしていました。忘れ物をした時に保護者に電話をかけるように心がけました。
- ・加配担当していた子どもの保護者と特に話をする機会が多かった。ホームクラスに入ることもあり、多くの保護者の方と話す機会が持てた。今後も保護者一人一人と丁寧に関わっていきたい。
- ・保護者から相談されたり聞かれたことはメモをしたり、電話やノートなどで連絡を取るようになっている。なかなか園になじめないお子さんが笑顔で登園するようになった時は、良かったと思うし信頼関係が出来てきたと実感した。
- ・子どものクセについて質問されたが月並みな返答しか出来なかった。その子の良いところを捉えて保護者に伝えて行くことが大事であると思う。また、その子の課題や悩みについてもしっかりと

と向き合い保護者と一緒にその子を支えていきたいと思った。

- ・朝、泣いて登園してきたり、不安気な表情で保護者と分かれたりした幼児の様子は、ドキュメントを通じて個々に一日の様子を知らせることに努めていった。連絡帳よりコドモンのドキュメンテーションをうまく活用し、子どもたちの様子を写真を通して伝えていくことが出来て良かったと思う。
- ・子ども達とのコミュニケーション同様、保護者ともたくさん取るように心がけてきた。話を聞いたり話したりすることで、子どもの姿が見えてくることが多くあるので、今後も適度な距離を保ちながら対応していきたいと思う。
- ・保護者の意見を真摯に受け止め、考える機会を作ってくくださったことに感謝したい。保育者では気が付かなかった面を教えていただけたたり、全職員も共通理解をする場になった。今後も保護者とのコミュニケーション、話し合いを密にとり、子ども達の環境を良くしていきたいと思う。
- ・コドモンのドキュメンテーション機能により、その日あった情報をタイムリーにお伝えできたことで、家ででの会話に繋がった、園での様子が分かり安心したとの声をいただいた。
- ・連絡ノートはこちらが記入しても見ていない方もいるので、いつも身近にあるスマホなどですぐに確認できるようなコドモンでの配信の方が伝わるやすいのか？と感じた。
- ・些細なことでも何かあった時には、電話やコドモンでその日に伝えることを大切にしていた。普段なかなか直接、接することができない保護者とは懇談会の際に、お互い伝えられることは伝え合うことを意識。また、連絡帳も保護者との連絡、子どもの様子や園に対する思いなどを伝え合うのに大切なツールになっている。コドモンがあり、必要ないのではと思う部分もあるが、連絡帳はコドモン以上に保護者とつながりやすく思いが伝えやすい。
- ・まだまだ保護者とうまく会話ができずに、ご迷惑をお掛けすることが多くなってしまった。日頃から些細なことでも話をできるように丁寧に関わり、一人一人の保護者と信頼関係を作っていく必要があると感じている。
- ・保護者からの相談は、心を開いてよく話を聞くように心がけました。また、自分の判断だけで解決できないことは、園長先生や副園長先生、先輩の先生方に相談し解決するよう心がけてきました。そのことによって、保護者からも感謝の気持ちなど伝えて頂き良かったです。今年度は就学に向けての話を保護者とさせて頂くことができましたが、もっと自分自身就学に向けてのことを勉強し、話しがスムーズにできるよう改善していきたいです。
- ・伝えなければいけないことは、メモに書き伝え忘れないようにしましたが、お迎え時に忘れてしまい後で電話連絡をすることがありましたので、降園時にきちんと伝えられるようにしていきたい。
- ・保護者とお話しする機会は少ないが、笑顔で元気に挨拶するように心がけている。
- ・お迎え時には必ず対面で挨拶し、話しやすい雰囲気づくりを心がけ、信頼関係を深めていき、日々の様子を伝える事や保護者の話にも耳を傾けることで、安心して子どもを預けていただけるように努めた。「先生大好き、〇〇チーム楽しい！」と子どもたちの言葉を保護者から聞くと、とても嬉しく励みになる。
- ・保護者と接するのは挨拶程度なので、保護者のお話を伺うことが無いに等しい。その分、保護者の思いを知る機会も無いので、日々のミーティングノートを確認し様々な情報を共有できるよ

うに心がけている。

- ・保護者の話をしっかり聞いて丁寧に対応してこれたと思う。今後も保護者が安心してもらえるように丁寧に対応していきたいと思う。
- ・ドキュメンテーションを通じて、細かくノートで伝えなくても日々の姿が伝わることはよかったと思う。ただ、そのことに甘えすぎていることもあり、もう少し一人一人の保護者とノートや口頭などでコミュニケーションをとっていきべきだと反省している。特にバス通園の保護者に対しては丁寧に関わっていきたい。

要望への対処の仕方

- ・保護者からの質問に対して回答できるように、自分自身が理解することが必要。
- ・保護者に直接話をするのは担任を交えてが前提で、加配は特別な時以外は立ち会わず担任に代弁してもらうことが多いが、担当児の保護者とほとんど話す機会が無いと細かい確認が出来ず、疑問や不安が残ったままになると感じるが多々あった。日々の姿を見たままに報告したりその姿から感じた思いを伝えること、保護者がどのように受け止めているのか、今家庭で困っていることは何なのかなど、保護者と直接対応することによって得られる些細な情報が、園では見えないその子の様々な姿を知ることとなり、今後の保育を進めていく上での重要な判断材料となることを改めて感じた。反省としては、そのあたりの思いについて、常に担任としっかり共有できているかの確認が足りなかったのかもしれない。
- ・保護者の意見には耳を傾け、思いをくみ取りながら対応できるよう心がけたが、時間に追われるあまり、それが保護者に伝わり気を使わせてしまうこともあり反省する。何事も余裕のある対応ができるよう気を付けていきたい。

IV 地域や自然や社会との関わり

地域・自然・人々との関わり

- ・散歩によく出掛け、地域の人たちと挨拶をしたり、声をかけてもらったりして、交流が持てて良かった。
- ・心地良い気候の時には、散歩に出掛けたり公園に行ったり、十分に自然との関わりを持てるような計画を立てて実行できた。
- ・散歩に出かけ、公園で思いきり体を動かして遊んだり、どんぐりを拾ったりして子どもたちが喜び楽しむことができた。
- ・積極的に園外に出かけ、園周辺を子どもたちと一緒に歩くことで、子どもたちが安全に散歩できるコースを把握し、更に裏の畑や芝生広場、探検の森など自然に触れた活動をすることができました。今後は、芝生広場や探検の森などの自然環境を保育に生かしていくことを課題にして取り組んでいきたいです。また、保育園のことを知ってもらえるよう、地域の方と関わる機会がもてたらいいと感じます。
- ・今年度はコロナウイルスの影響で地域の方と関わる機会はあまりなかったが、散歩に行った際に会った方と挨拶を交わすことで、子ども達も自然と真似して挨拶するようになり、地域の方々にも温かい目で見守っていただけたように思う。

- ・園外に散歩に行く機会があると、団地内の方に会う機会があり、私達保育者が挨拶をすると、子ども達も自然に「おはようございます！」と言葉が出るようになった。そんな些細なことでも、園の子ども達と地域の方との繋がりができていけたらと思っている。
- ・散歩に行ったり探検の森での探検は、子どもたちにとって、とてもいい経験になっていると思う。特に探検の森では、散歩や公園に行くことだけでは経験できない自然とのふれあいや発見ができる、とてもいい場所。これからもたくさん行き、子どもたちのワクワクやドキドキと一緒に体験したり共感したりしていきたい。
- ・探検の森や芝生広場で、子どもたちと体をたくさん動かしたり、自然に触れたりして遊ぶことができた。園の玩具や遊具とは異なる自然の中での子ども達の遊びの発想がとても面白く、行く度に新しい遊びを発見する姿に驚き、自分も一緒に楽しむことができた。
- ・公園でどんぐりや松ぼっくりなどを拾うことや、それらを使った制作遊びなど、季節ならではの楽しさを味わうことができたと感じる。
- ・自然に囲まれた良い環境ということもあり、散歩にも行きやすく危険も少ないので良いと思う。また探検の森ができたことで、より自然に親しむことができてよかった。これからもたくさん行きたいと思う。
- ・近くの公園まで散歩に行き、どんぐり拾いをしたり、四季の変化を子どもながらに感じ、楽しんでいる姿が見れて良かった。園外保育の三重大農場は、普段できない体験が出来、いい経験になったと思う。探検の森もとてもいい経験になるので、たくさん行きたい。子ども達に話ができるよう、自分自身知識を増やしていきたい。
- ・今年はコロナウイルスの件で、地域の関わりが少なくなり残念でした。探検の森を整備していただいている皆さんには、本当に感謝しています。小さい子でも楽しめるように考えて保育に努めたいと思います。
- ・今年から、園の駐車場の奥に「探検の森と芝生広場」ができたことにより、子ども達が伸び伸びと遊べる環境が増えて、とても良いなと感じる。広い芝生で楽しく友達や保育者と追いかけて遊んだり、芝生の上をゴロゴロしたり山へ登ることができてすごくいいと思う。
- ・今年はコロナの影響で人との関わりは難しかったが、遠足の休憩場所やトイレに地域の施設やお家のトイレをお借りする段取りをすることができた。年長児は、地域のテニススクール、郵便局、動物病院へ見学に行くなど、新しいつながりや関わりでき良かったと思う。
- ・地域の方との関わりでは、「絵本の読み聞かせ」で来園されたボランティアの方々とは挨拶をかわして雰囲気作りに努めてきた。
- ・園外保育の際に近くの公園に行ったり、山遊びに行ったりと地域の自然に触れられるような経験を持てたことは良かった。
- ・自分自身が周囲の環境を理解していないことが多々あるので、まずは自分が理解して子ども達に伝えられるようになることが必要。
- ・地域に在住している未就園児と交流してきたことは、クラスの子どもたちにとっても自分にとってもよい機会となった。今後も続けていけると良いと思う。
- ・今年はコロナでバスに乗って出かけられなかったため、地域の公園に散歩、遠足に行くことで地域の自然に例年より触れることが出来たように思う。秋には落ち葉や木の実を集め、普段の遊び

- の中に取り入れていくことが出来た。探検の森にも天気の良い日にはなるべく遊びに行くようにし自然の中で遊ぶ楽しさを経験させることが出来たと思う。
- ・ 町探検や園外保育で団地内の公園に出かけたことで地域のことを知り、関わりを持つことができた。今後も散歩などを含め団地の中を歩き、知っていくことが大切だと感じる。
 - ・ 今年度、花育、焼き芋パーティーなどのお手伝いや、絵本お直し隊の活動のほか、絵本の読み聞かせをお願いし、触れあいを持つことができたこと嬉しく思う。今後も是非お願いしたいと思う。
 - ・ 芝生広場や探検の森を造成したことで、子ども達が自然に触れることができた。
 - ・ 園外散歩、園外保育などを通して町の工夫を体験したり、働く人の様子を見ることで地域社会との関わりを密に持つことができ、地域を身近に感じる事ができた。
 - ・ 芝生広場や探検の森ができたことにより、普段園庭では自然との関わりや体験ができない季節ならではの遊びや学びに繋がった。年齢に応じた利用の仕方がある必要があるが、事前の対策などを考え有効に利用していきたい。
 - ・ 園外保育を通じて豊が丘の地域と関わる機会を持つことができました。
 - ・ 日頃から挨拶をすることを心がけることはできたと思います。
 - ・ 今年度のクラスは、幼稚園の周りにはどんなお店屋や、どんなものがあるかを散策し、またその後、自分たちで地図を書くなど楽しみながら学ぶことができました。また、地域にあるテニススクールを訪問させていただき、テニス体験をさせて頂いたりテニスのことを教えて頂いたりしました。地域のことを知り、地域の方々と触れあうことができとてもよかったと思います。色々ご協力して頂いた地域の方々に感謝です。
 - ・ 今年度は、散歩に出かける機会を多く持つことが出来た。様々な施設への興味や地域の方との交流、園の周りの環境の変化や身近な物事への関心など、散歩の経験からたくさんの学びがあった。また、自分の足で歩きながら確認することによって得られることも多かったと、子供たちの様子から感じとることが出来た。そして、自然遊びがたっぷり出来る探検の森へすぐに出かけられるようになったことは、これまでの子供たちよりも、自然への興味の広がりや新しい体験の機会が確実に増していることを感じる。学年でしばらずクラス単位で散歩に出かけられたことが、結果、散歩の機会が増したことに繋がりが良かったと思う。
 - ・ コロナの影響で園外に出掛けることは難しかったが、子どもたちが芝生広場や探検の森でとてもびのびと楽しんでいる姿を見ることができてよかった。絵本を読んでくださるボランティアの方々との関りもとても良いと思う。
 - ・ 園外保育で三重大学農場に行き、園にはない木やどんぐり、落ち葉などの自然に触れたり、園外の方と話をしたりできたことは、子どもたちにとって貴重な体験だったと思う。今後は“コロナ対策”が毎年入ってくると思うので、子どもたちの命を守ることと園外に出ているいろいろな経験をする事のバランスと対策が必要になってくるのではないかなと思う。あらゆることをシュミレーションしておくことも大切だと思う。

V 研修と研究について

研修・研究への意欲・態度

- ・コロナウイルスの影響で、なかなか研修も難しい中、感染対策をしながら研修に参加でき学んだことを園に持ち帰り、報告できて良かった。
- ・園内研修や外部講師の先生の話聞いた時は、日々の自分の保育の見直しができ勉強になった。
- ・自分の考えの幅が広がったように思う。
- ・研修担当として毎月ラーニングストーリーへの取り組みを中心に進めてきたが、自分自身、人前で話すことを苦手とし不慣れなため、難しいことが多かった。その中で、副園長先生をはじめ多くの先生方に助言をいただいたり、事前把握や理解に努めたりするなど勉強になりました。マネジメント研修で得たことを実践するよう、引き続き意識しながら努力していきたいです。
- ・手探り状態で始めたラーニングストーリーも、研修や三重大大学の先生のアドバイスを聞きながら進めていくことでだんだん良くなっていった。ただラーニングストーリーを作成するだけではなく、こういった研修一つ一つから学んでいくことが大切だと改めて感じた。毎月の会議でも、実際に園であった出来事や悩みを共有しながら研修していくことで、職員全体で共有し解決したり学んだりすることができたので、とてもいい機会だったと思う。
- ・ラーニングストーリーを作成することで改めて子どもとの関わり方を考えることができた。また、保育者同士で話し合うこともできた。
- ・4月から計9回作成してきたが、保育者の能力に差を感じる。子どもを見る視点、文章での表現の仕方や国語力をいかに伸ばすか、自分を含め課題ではないか。
- ・研修に参加したい思いや、学ぶ姿勢はあるが、家庭の都合で参加ができていないのが現実。日程が合うものであれば、今後も自身のスキルアップのために参加したいと思う。
- ・園内研修は参加できる時は参加し、勉強させていただきました。普段見過ごしてしまいそうなことも、初心に戻り振り返りができ良かったです。
- ・今年度から始めている“みてみてストーリー”を通して、子ども達の様子を今迄より増して子ども達のことをよく見て、声を聞いて、行動を理解することができたと思う。まだまだ未熟なことが多く、勉強不足で足踏みをしてしまうことがあるけれども、この研修をしているからこそ、より子ども達の成長や学びを敏感に感じ取れることができたのではないかなと思う。
- ・今年度から取り組んでいる“みてみてストーリー”を行ったことで、以前より子どもを見る視点や成長に対して、些細なところにも気付くことができるようになったと感じている。作成する中での悩みや難しく感じることも多々あるが、園内研修で勉強会をしていただくことで、いろいろな意見をうかがうことが出来、自分自身の勉強になるのでとてもありがたい。
- ・自分が普段から思っていた遊具の遊び方について、職員会議の園内研修で話す機会をいただけた。先輩方の色々な意見を聞くことができ、自分の考えが深まった。安全面を考慮することも大切だが、子どもたちが遊びの中で自分で気付いたり考えたりする経験も必要である、ということ学ぶことができた。色々な考え方があると感じたため、自分も色々な角度から考えるように意識していきたい。
- ・会議と研修を一緒にしていただくことで、今年度は研修に参加できる機会が多かった。研修に参加することで気づいたり、反省することができ良かったと思う。これからも研修に参加し、保育の質を高めていけるよう努力していきたい。
- ・毎月の職員会での研修会にできるだけ参加していく中で、保育を見つめ直したり、他クラスの先

生の意見を聞け、とても勉強になったし、もっと学んでいきたいと思った。時間や家庭の都合で参加できない日もあったのが残念だった。

- ・配慮の必要な子が増えてきている昨今、研修で話を聞いたり助言をいただける機会があった事はとても有難かったです。時間の都合で大きい子の話が中心でしたが、担当する子どもたちの中にも気になる子や保育方法に困っている子がたくさんいたので、聞きたかったという思いは残りました。他の先生方から見たり聞いたりすること自体が、自分にとっては日々の研修になっています。こういう思いで年齢関係なくリスペクトしながら保育に臨むと良い相乗効果がでるかと思えます。
- ・今年は、新型コロナウイルスの関係で研修に行けなかつたりしたのでコロナが終息し、もし、参加ができるようになる状況になれば研修などに参加していけたらいいと思う。
- ・三重大の先生や、専門分野の先生など講師の先生をお招きして、日々の保育、支援の方法などを具体的に教えていただくことができた。
- ・今年度は、コドモンを使ったドキュメンテーションを取り入れることで、子どもの姿を映像で振り返ることができ、日々の保育の中では気付かなかった子どもたちの姿や気持ちに気付くことができた。
- ・研修で学んだことを全てではないが保育に活かせることができた。研修内容を振り返り見直すなどして自己学習もしていきたい。
- ・今年はコロナの影響でリモート研修でしたが、自分のスキルアップの為に参加させてもらう事が出来てありがたく思います。
- ・専門分野の先生の実体験のお話や、実際に子どもたちの事例を元に検討していくような研修は、本当に貴重で為になるので増やして欲しい。自分に合った研修であるか否かを見極めて参加していきたいと思う。
- ・研修に参加して、他の先生の保育を見て自分に置き換えて考えたり、参考になることも多く勉強になったので良かったが、「これもやってみよう」「あれもいいな」と思うものの、実際に行うことがあまりできていない。実際に行うことが必要で大事。
- ・今回、園内研修に参加することが出来ました。いろんな情報や資料を手に入れる事ができて勉強になりました。
- ・コロナ禍で今年度は研修が少なかったが、可能な限り研修に参加した。参加することでいろいろな知識を増やしていきたい。
- ・様々な研修があり、とても興味深いし為になりました。自分を磨くことや考え方のクセなども客観視できたと思います。また、話を聞いて保育に生かそうという気持ちになりました。今年はオンラインでの開催が多かったので、園や自宅にいながら受けることが出来て経費削減になったと思う。
- ・自分の月案を書くときには、園内研修で学んだことを参考にし、他の先生たちの月案や、保育室の環境も勉強できてよかった。また、園内研修には積極的に参加するように努めてきた。研修の時間が17時以降になるのはどうしても残業になってしまうため、業務時間内で出来るようにしていった方が良くと思う。
- ・ドキュメンテーションを通し、より保護者の方々に子ども達の様子や日々の保育を伝えるこ

とができたように思う。写真を撮ることによって、自分の視点や考えなどを再確認したり反省したりすることにつながっていった。

- ・写真は、月案等を書く際に振り返りを行うことができたり、園内研修の資料として生かしたりすることが多くあり、目に見える資料として最適だったように思う。自分の資質向上にもつながっていったように感じる。
- ・専門分野の先生の研修会に参加することができ、勉強になりました。参加できる研修会には出席していこうと思います。
- ・今年度、コロナ禍ということもあり、研修が無くなったり、ズームでの研修になったりした。その分、園内での研修を深めることにより保育力の向上を目指した。また、研修ができるようになった時には、是非他園の公開保育や講演会に参加し資質を上げていきたいと思う。
- ・リモートでの研修が多かったが、研修会場へ時間や費用を考えると園でできることはよかった。
- ・日々の園内研などで、自らの保育を振り返ったり、自分以外の先生の考えや意見を聞くことで目線を変えた見方に気付くことができた。
- ・今年度はコロナ渦の中、研修が中止になったりリモートになったりと、他園へ行って実際に保育する場面が見られなかったことが何よりも残念なことであった。その分、園の先生たちのクラスの環境を見たり、本を読んだりすることで自分の保育につなげてきた。
- ・園内研修は、今年度、家庭の事情により遅い時間に出席することができないことが多かったため、その後の議事録を読み学ばせていただきました。研修の中で、先生方が書いてみえる月案を見せて頂く機会がありましたが、先生方の子ども達への温かい思いとそこからの保育計画が素敵でとても勉強になり良かったです。
- ・なかなか時間が合わせられず、園内の研修も参加出来る機会は少なかったが、参加できた時には必ず得られるものがあり勉強になることばかりだった。講師の先生や先生方の意見を聞きながら、子どもと関わる責任ある仕事に就いている以上、保育経験の長短によらず、自分の保育を振り返る時間は必要不可欠だと感じる。今後も出来る限り参加して、自己研鑽に努めていきたいと思う。
- ・子どもたちへの関わり方について、これまで自分がしてきたことや考えていたこと以外の関わり方や接し方があることを学び、日々の保育の中に取り入れ実践できてよかった。
- ・園内での研修会に参加でき、自分の保育を見つめ直す機会となった。今後活かしていきたい。
- ・園内研修のみの参加だったが、先生方とは日頃なかなか話をする機会が無いので、それぞれの思いや自分で思っていることに対する考えを聞かせていただけたのが良かった。
- ・自己都合により、研修に参加できることが少なかった。参加した時には、自分自身の保育や考えを重ねながら出来ている事、そうでない事に気付き、なるべく次に生かせるよう心がけたり保育の取り組みの共通理解に努めたりした。
- ・クラスのこと、保育業務、ドキュメンテーションに追われ、研修への余裕や意識がもてなかった。仕事に追われるのではなく、余裕をもって早めに進めたり優先すべきことを決めたり

して、ゆとりをもって研修に臨めるようにしていきたい。

悩みについての相談

- ・保育のあり方など、自分に今一つ自信が持てず“これでよかったのか？”など疑心暗鬼になるときもあるが、その都度、副園長先生に相談したり話を聞いていただいたりすることで、真っ暗なトンネルで迷子にならずにいられる。職務のプレッシャーもあるが、自分のできることを精一杯頑張りたい。